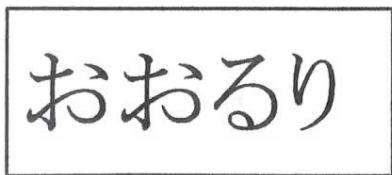


放送大学  
栃木同窓会会報



発行：放送大学栃木同窓会  
編集：会報編集委員会  
責任者：会長 須藤 國夫  
発行日：令和3年7月7日

ホームページ <http://hosodaigaku-tochigidosokaijimdo.com/>

## 第21回、第22回総会の結果

コロナ禍で延期となっていた第21回通常総会と第22回通常総会が令和3年6月27日(日)に書面総会にて開催されました。当日はWeb(ウェブ)にて役員会を開催して、総会の結果を確認いたしました。議決権行使書による投票結果は、投票結果一覧表のとおり賛成多数で可決されました。なお、投票：43票、未投票：62票でした。

投票結果一覧表

総会	第21回総会					第22回総会					
	1号	2号	3号	4号	5号	1号	2号	3号	4号	5号	6号
賛成	43	43	43	43	43	43	43	43	43	42	43
反対	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
結果	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決

ご承認ありがとうございました。役員一同、栃木同窓会のさらなる発展のため務めて参ります。初めての書面による総会の開催でいろいろ戸惑いがありましたが、多くの方に投票いただきました。今後とも同窓会へのご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

## 会長あいさつ

皆様いかがお過ごしでしょうか？先日第21回、第22回総会が開催されました。慣れない書面による総会が終了してホッとしております。現在会員は132名です。栃木同窓会設立以来20年が経過し、今回初期の入会者の引退(退会)が出たりしました。長い間のご協力・ご支援誠にありがとうございました。また、30年目への継続会費をお支払いいただいた方には深く感謝申し上げます。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症により活動が制限される状況ではありますが、できる範囲で同窓会活動を進めていきたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。なお、会報へのご投稿を歓迎いたします。

## 連合会ニュース

第24回総会が令和3年5月29日(土)に書面総会にて開催されました。会長に石川の北野敏夫さん(再任)、副会長に茨城の矢野正義さん(再任)と栃木の須藤國夫さん(新任)が選任されました。

## 学長が変わりました

新学長に岩永雅也先生が就任されました。副学長には、近藤智嗣先生、菊川律子先生、隈部正博先生が就任されました。

「囲碁と私と放送大学」 自然と環境コース

宇都宮市 恩田烈彦

まず囲碁であるが、仲邑菫がマスコミを賑わし、周知も進んできた。囲碁将棋への理解は一昔前とは大きく変わってきた。もう30年以上前のことになる。将棋好きな大学生が、「彼女を家に呼ぶときには将棋盤を隠した」と言っていた。「根暗」と見られたくないというのだ。囲碁は『ヒカルの碁』ブームがあった。将棋も藤井フィーバーで、イメージがずいぶん変わった。囲碁は「打つ」、将棋は「指す」と表現する。江戸時代、徳川家康の庇護により、囲碁所と将棋所が設けられた。初代の本因坊算砂は両方の第一人者であったが、将棋所を大橋宗桂に譲った。権力の分散であり、この英断によって、今日の囲碁と将棋の隆盛がある。囲碁と将棋は兄弟関係のようなものである。尚、栃木県では家康にちなんで「囲碁の聖地日光協議会」が発足し活動している。

私は宇大附属中学校を卒業後上京し、大枝雄介九段の内弟子となった。これで学校に行かなくてよいと、非常に嬉しかった。私がプロ棋士になったのは17歳、昭和55年のことである。当時は「高校に行く人は強くなれない」と言われていた。あるとき、将棋の佐瀬勇次から「米長邦雄は高校に行ったから名人になれない」と伺った。佐瀬は米長の師匠である。その後、米長は名人になった。藤井聡太は高校を中退し、対局に専念している。東大推薦という話もあったが、ワイドショーに出演したプロはあまり賛成していなかった。将棋のプロには、東大博士課程在籍中の谷合廣紀がいる。囲碁の世界でも、一力遼は早稲田大学を卒業した後、家業の河北新報社の記者を勤めながら、タイトル戦でも活躍している。プロ野球でも、二刀流の大谷翔平が活躍している。時代はマルチタレントを要求しているのだろうか。藤井も将来勉強したければ、いくらでも道がある。

ずっと中卒で通してきた私に、転機が訪れた。2016年3月、人工知能の「アルファ碁」が世界トッププロの韓国のイ・セドル九段を破ったのである。20歳の頃、博学の先輩から、いずれ学習コンピューターが出現して、人間が勝てない時代が来ると言われていたが、こんなに速く来るとは思わなかった。それまで、囲碁だけは人間はAIに負けないという自負があったが、あっけなく崩れ去った。私の父は高校教師だった。囲碁のプロになれなかったら、大学検定（現在の高校卒業程度認定試験）があると言っていたことを思い出した。まずは、高卒の資格を得ることにした。高校の教科書を取り寄せ、過去問に取り組んだ。YouTubeには、様々な授業動画がアップされている。また、NHKの高校講座もインターネットで見られる。教材に黙々と取り組むという通信教育のイメージも大きく変わった。その効果か、同年11月の試験に合格することが出来た。厳かな雰囲気試験は、身が引き締まると同時に、心地よくもあった。2017年2月に九段昇段が決まった。大学入学前であり、一つの区切りとなった。

放送大学での学びだが、パンデミックでも不自由はないし、コストパフォーマンスも最高である。今興味があるのは、細胞や生物、数学などである。社会と産業では大国同士の覇権争いを学んだが、動植物の争いも興味深い。自然と環境に再入学したが、地道に学習に取り組んでいきたい。時代は変化する。それに合わせて己も変化しなければならないのは、進化論が示唆している。

※ 放送大学では、大学の学生および大学院の学生を募集しています。

知人、友人をご紹介ください。皆さまの再入学、進学も歓迎です。 とのことです。

2019年3月31日定年後退職、同じ会社で再就職となった。今3年を超えたところだ。人間の集中力というものが、これほど落ちてくるとは思えなかったが、小さなミスの繰り返しに思い知らされる「不甲斐なさ」、今まで、できてたことができない結果の積み重ねは、「自己肯定感」とやらも、意気消沈してくる。

自己責任型の会社(社会)運営は、年齢にかかわらず重い責任を押し付けてきているようだ。この経験からも「気が付くか」「気が付かないか」は別として着実に仕事行動に対する成果は落ちてきている。再就職とはいえ、主任なりの役が付くと現役の正社員とおなじ責任範囲がのしかかってくる現実には、こちらが思う再就職の思いとはかけ離れている観がある。5年ぐらいは働けるかと思っただけだったが、難しくなってきたようだ。幸い男性63歳から報酬比例部分が受給できるので新たなる人生設計のロードマップを構築する段階になったようだ。失業給付などを受けながら、じっくり急いでこれからの人生を考えて行こうと思う。

2021年6月25日、現在70歳古希のさだまさしコンサートに参加してきた。コンサートに参加するのは、30年以上ぶり、長年活躍している歌手だけに期待値は大きい。高齢者率の高い会場は、マスク着用、入場時に健康チェック、入館時に消毒マットによる靴裏の消毒、手指の消毒等のコロナ対策をとって、指定席にチェックイン。一瞬暗転し、舞台上にスポットライトが集まり、開園の幕は上がった。セルフカバーニューアルバム『さだ井』の楽曲を演奏始めた。オープニングは、「北の国から」始まり、中ほどの「関白宣言」、そしてトーク、アンコール「いのちの理由」を歌い上げて締めとなった。私が注目していたトークも秀逸で、1994年新種久米島ホテル、八丈島夏まつりの体当たり追っかけ娘など40分を含めて、アンコールまで14曲、2時間のコンサートは感動を抱かせつつ明天となった。退場は2列ごと規制退場し、帰途に就いた。車内では、会場購入の『さだ井』を響かせながら、追余韻を楽しんだ。

今は、ユーチューブ(YouTube)でも「昔の画像が見られるが、生きている本人を生で見られるうちは、拝顔しておきたいものだ。コロナ禍で大人数の集会在困難な中、感染対策を十分行ったエンターテインメントの継続を期待して、アルバムなどのデバイスは、購入して応援していきたいものだ。さだのトークの中で、島の招待者が「この島に生きている歌手が来たのは、初めてだ。」の言葉は、感慨深い。

さて、放送大学の話にしていこう。2001年入学してから2021年の社会と産業コースが、4コース目の卒業となった。我ながら、相当長く教養を育ててきている。自宅のネット環境が整うまでは、学習の仕方も録画した講義を再生して学習することが多かった。今は、オンラインで時間に縛られずに学習することも出来る。また、夜の学習もできなくなった50歳を過ぎてからは、朝5時位から机に向かって、わずかな時間を教材・講義に向き合っ、学習モチベーションを保ちながら全集中が続かない今、できるときにできることをできる範囲で「半端でもいいやん」と決めて学んでいる。

私は、ZOOMでの研修など想像もできなかったが、時代の変化がこちら側にも変わろうよと微笑みかけている。ネットで検索すれば、どんな情報でも検索される時代に取り捨選択する感性知能知識は、必要だと考えている。今は、自分が理解できる内容・情報を粛々と積み重ね、若者に負けないことを必要とされているような気配が染み込んできている。「習うより慣れよ」の慣用句が思い浮かぶ。

放送大学に深謝

宇都宮市 島田新一 (人間と文化コース卒業)

定年退職が近づいたある日、娘が放送大学入学を勧めた。それがきっかけで、2009年4月に入学した。最初のコースは「社会と産業」。政治・経済・法律を学ぶのは長年の夢であった。登録した9科目の中に、国際政治学者 高橋教授の「現代の国際政治」があった。まさに私が学びたかった世界である。授業始まりのミュージックから心は躍った。単位認定試験初日に4科目受験という試練から始まったが、不思議と苦にならなかった。面接授業では色々な地域・世代からなるグループディスカッションは楽しかった。瞬く間に2年が過ぎ、NHKホールでの卒業式を間近にした3月、東日本大震災が発生。卒業式は1年延期となった。

その後、10年で5コースを卒業し、今、その証となる最後の卒業証書を待っている。大学本部で行われる最後の卒業式には是非出席したいと思っていたが、今度はコロナで中止。人生には色々なことが起きる。

そんな12年間、私は学生生活を大いに楽しんだ。学生旅行は6回を数える。また、入学当初、授業のインターネット配信がない時代だったこともあり、学習センターには良く通った。それは学友との出会いをもたらし、学習意欲の向上とサークル活動に繋がった。また、宇都宮市主催の「大学生によるまちづくり提案」発表会にも出場した。サークル活動のひとつ、友の会の「所長とランチ」、「夕方カフェ」は2013年以来活動を続けて来た。そこでは所長・客員教員の先生方や学友から授業では得られない様々なことを学んだ。他人(ひと)の話には貴重な経験が詰まっている。それが魅力で活動を続けて来たように思う。

放送大学の12年間は小学校から高校までの期間に等しい。でも、その期間は短く感じた。カリキュラムは自由に設定できるし、卒業後も再入学しては新たな世界が学べる。そんな放送大学は、まさに生涯学習の場だと思う。

最後に、これまで学びを支えてくださった放送大学関係者、学友の皆様に深謝し、そして、また、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

\* 4月より選科履修生として再入学しました。

### 研修旅行のご案内

福島同窓会と 福島学習センターの学生サークル「会津学知会」とコラボしての研修旅行を計画しています。

日時：10月16日(土)、17日(日) 1泊2日

16日 列車でのんびりと北上 晩に懇親会を予定

17日 福島の方々と会津若松市内の歴史散策

行程：行き JR日光線、東武鉄道、野岩鉄道、会津鉄道

帰り JR磐越西線、東北線

### 日帰り研修旅行

現在、県内で日帰り研修旅行を企画検討中です。

ご要望等があれば、ご連絡ください。